



安川電機 (6506)

2013年3月期決算説明会 (2013年4月22日)

2012年3月21日～2013年3月20日

代表取締役会長兼社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

1. 2012年度(2013年3月期)連結決算

- ・ 12年度連結決算概要
- ・ 12年度連結決算概要(セグメント別)
- ・ 営業利益増減要因分析
- ・ 事業セグメント別売上高構成比
- ・ 仕向先別売上高
- ・ 仕向先別売上高構成比
- ・ 2012年度における取り組み

2. 2013年度(2014年3月期)の見通し

- ・ 2013年度の事業環境見通し
- ・ 2013年度連結業績見通し概要
- ・ 2013年度連結業績見通し概要(セグメント別)
- ・ 営業利益増減要因分析
- ・ 2013年度における取り組み

3. 参考資料

- ・ 設備投資、研究開発費、為替状況
- ・ B/S構造の推移
- ・ 連結売上高・営業利益推移
- ・ 四半期連結売上高推移
- ・ 中国・アジア地域における取り組み
- ・ 主要生産拠点

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

【主要製品】

- ・ACサーボモータ、コントローラ
- ・リニアサーボ
- ・インバータ
- ・パワーコンディショナ
- ・EV用ドライブシステム など



ACサーボ



汎用インバータ



太陽光発電用
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ
システム

ロボット:(R)

【主要製品】

- ・産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装ロボット
 - FPD搬送ロボット、新世代ロボット
- ・半導体製造装置用ロボット
 - 半導体製造装置用クリーン・真空ロボット など



レーザー切断・溶接対応
高精度軌跡ロボット



双腕ロボットによる
製品組立



パラレルリンクロボット

システムエンジニアリング:(S)

【主要製品】

- ・鉄鋼プラント用電機システム
- ・上下水道用電気計装システム
- ・大型風力発電用電機品 など



上下水道システム



連続鋳造設備



大形風力発電用
発電機とコンバータ

情報:(情報)

【主要製品】

- ・コンピュータ周辺機器
- ・レーザー応用システム
- ・ソフトウェアの開発、IT関連のサービス など



ハイパワーレーザー対応スキャナヘッド



NetSHAKER ProxyBox

1. 2012年度連結決算

2012年度連結決算概要

- ・ 売上高、営業利益、経常利益ともに計画を達成
- ・ 主力の(M)が弱含みのため11年度比で減益

	<u>12年度 実績</u>	12年度 計画	11年度	<u>前年度比</u>	
売上高	<u>3,103億円</u>	3,000億円	3,071億円	<u>+32億円</u>	<u>+1.1%</u>
営業利益	<u>130億円</u>	130億円	148億円	<u>▲17億円</u>	<u>▲11.8%</u>
経常利益	<u>140億円</u>	130億円	156億円	<u>▲15億円</u>	<u>▲10.1%</u>
当期純利益	<u>68億円</u>	70億円	84億円	<u>▲16億円</u>	<u>▲19.3%</u>

(注)(M) = モーションコントロール

(注)表内「12年度計画」は、2012年10月17日2Q決算発表時の外発数値

2012年度連結決算概要(セグメント別)

- ・太陽光パワコンは需要急増。ACサーボは想定以上に苦戦
- ・(R)は自動車向けを中心に、総じて堅調

(単位:億円、%)

	2012年度		2011年度		前年度比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	3,103	-	3,071	-	+32	+1.1%
(M) モーションコントロール	1,443	-	1,494	-	▲50	▲3.4%
(R) ロボット	1,102	-	1,010	-	+91	+9.1%
(S) システムエンジニアリング	372	-	355	-	+17	+4.9%
情報	127	-	128	-	▲0	▲0.3%
その他	57	-	82	-	▲25	▲30.3%
営業利益	130	4.2%	148	4.8%	▲17	▲11.8%
(M) モーションコントロール	32	2.3%	58	3.9%	▲25	▲44.2%
(R) ロボット	83	7.6%	70	6.9%	+13	+19.3%
(S) システムエンジニアリング	15	4.0%	19	5.4%	▲4	▲21.5%
情報	▲2	▲1.9%	▲1	▲1.1%	▲1	-
その他	3	6.0%	5	6.3%	▲1	▲34.4%
消去または全社	▲1	-	▲3	-	+1	-
経常利益	140	4.5%	156	5.1%	▲15	▲10.1%
当期純利益	68	2.2%	84	2.7%	▲16	▲19.8%

2012年度決算連結概要(セグメント別)

(M)

- ・ ACサーボは、主力のエレキ関連市場及び中国市場の減速により低迷
- ・ インバータは、パワコンが下期から需要急増
米州のエネルギー関連は堅調

(R)

- ・ 国内外とも自動車を中心に一般産業向けが堅調
- ・ 液晶・半導体向けは低水準

(S)

- ・ 売上は11年度並みも、水処理向けの減少により減益

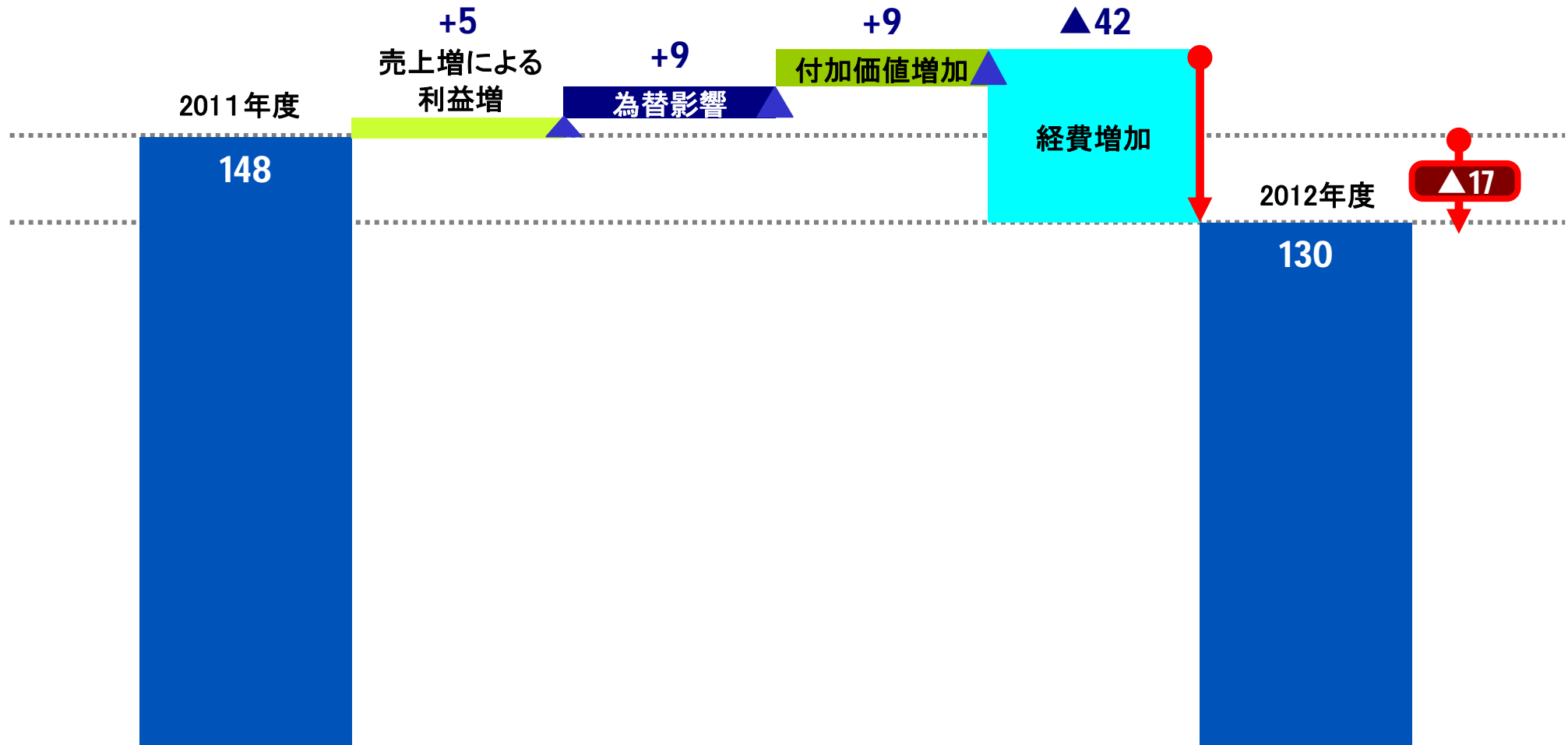
(情報)

- ・ 情報関連投資は依然低調。売上横ばいも減益

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

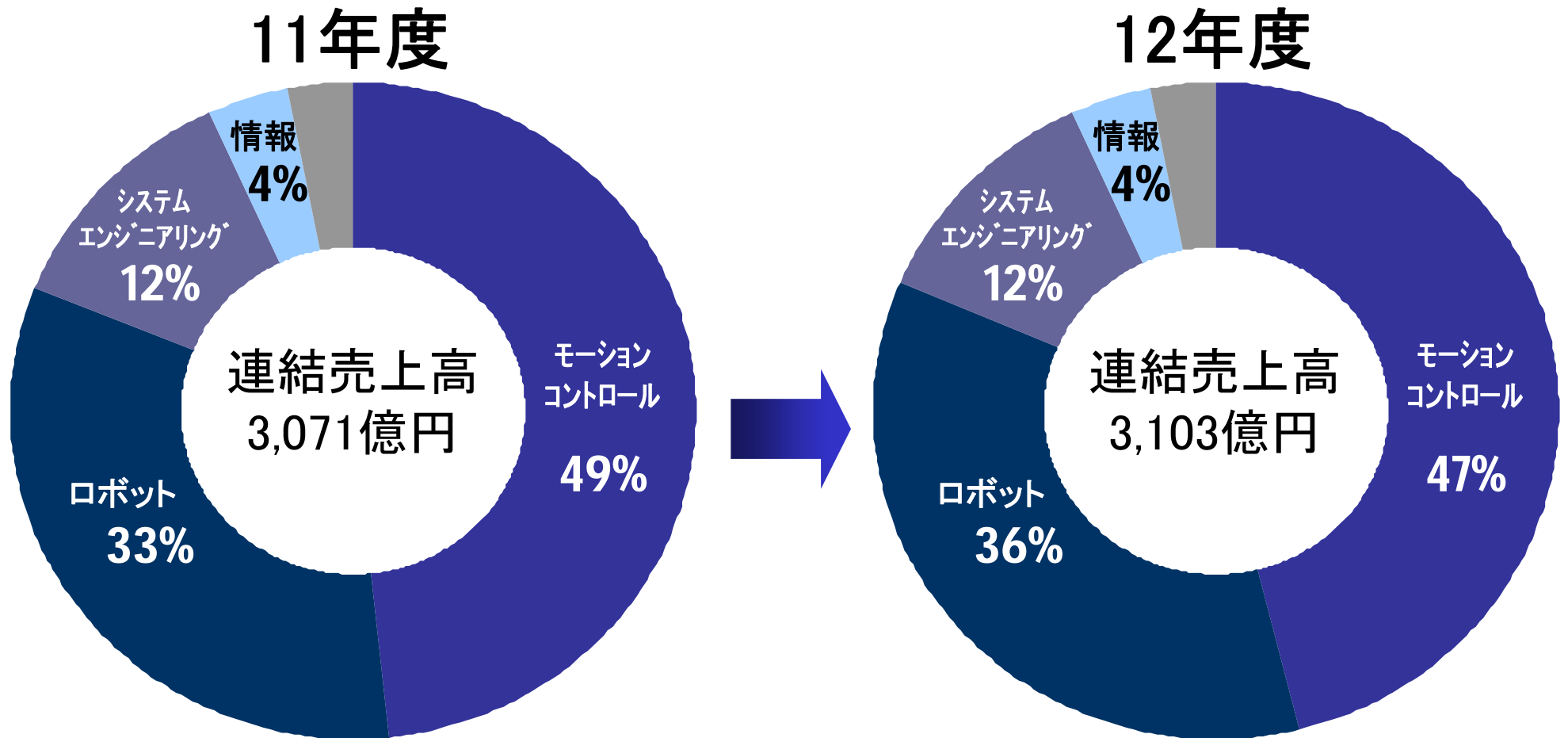
営業利益増減要因分析 (2011年度 ⇒ 2012年度)

(単位: 億円)



事業セグメント別売上高構成比(2011年度⇒2012年度)

- ・ (R)ロボットが伸長し、構成比が拡大



仕向先別売上高(2011年度⇒2012年度)

- ・米州は順調な回復
- ・欧州、中国、アジアは弱含みで推移

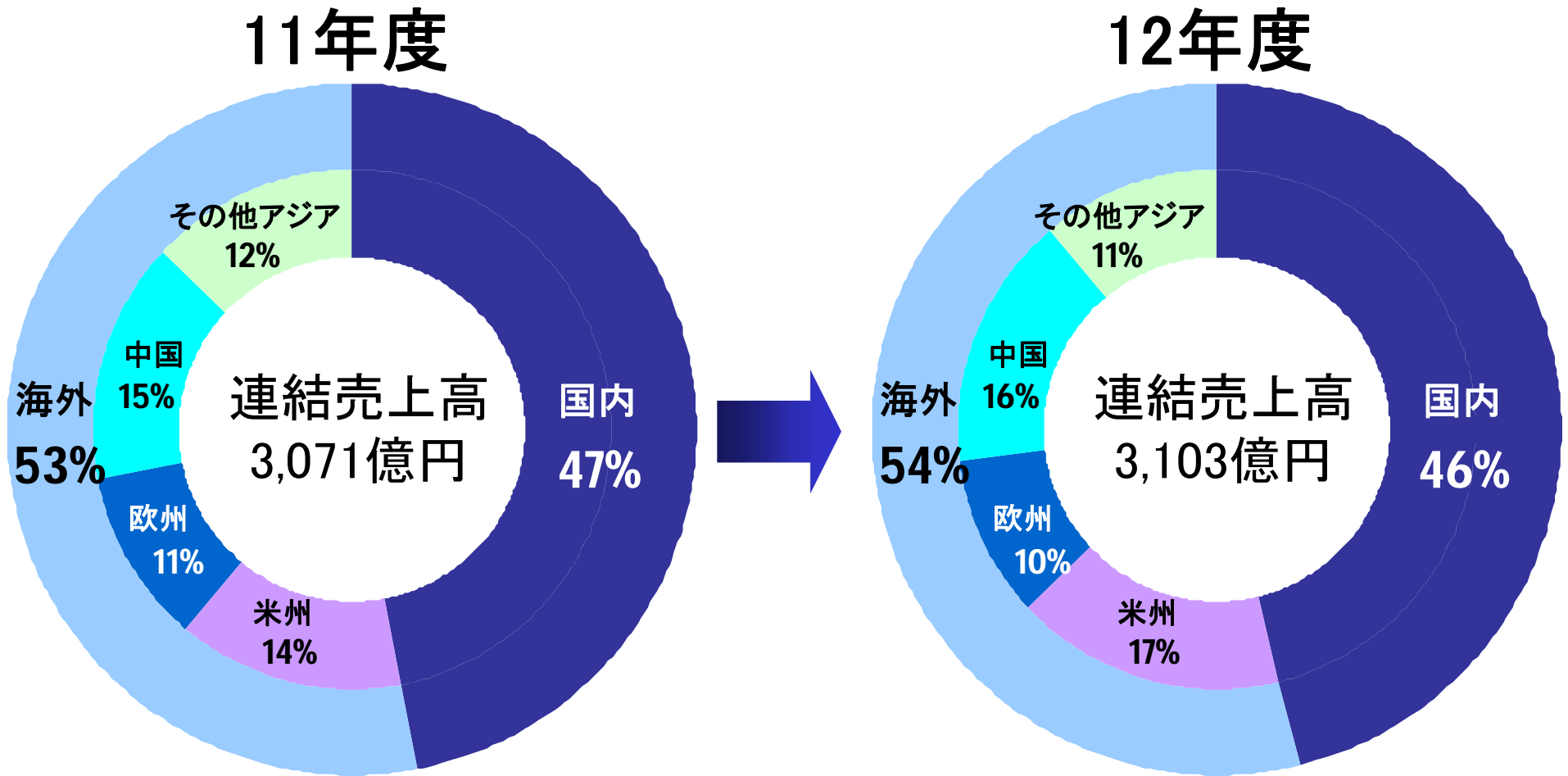
(単位: 億円、%)

	12年度	11年度	前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,103	3,071	+32	+1.1%
国内	1,434	1,430	+4	+0.3%
海外	1,669	1,640	+28	+1.7%
米州	511	439	+71	+16.2%
欧州	320	339	▲18	▲5.6%
中国	485	473	+12	+2.6%
その他アジア	327	379	▲51	▲13.7%

(注) 内訳には「その他地域(オーストラリア等)」の記載は割愛している。

仕向先別売上高構成比(2011年度⇒2012年度)

・米州が構成比を17%に拡大



2012年度における取り組み① 量の確保

1) 成長・注力市場への重点投資

- 米州エネルギー産業への積極参入
⇒2012年9月:カナダSI「Wermac Electric社」の取得
- 南アフリカ地域における活動強化
⇒2012年9月:南アフリカのロボットSI「Robotic Systems SA社」を取得
- 中国における現地対応力の強化
⇒瀋陽にサーボの中国開発センタを設置
- 安川通商による販売力の強化
- ドイツにおける(M)のシェア拡大
⇒2012年12月:ドイツPLCメーカー「Vipa社」の取得
- ロボットセンタの新設・強化
⇒欧州、中国(広州)、ブラジルに展開(日本、米州、中国(上海)は11年度に開設)



YASKAWA Southern Africa



Motoman Robótica do Brasil

2) 新製品の開発

- ・2012年上期:省レアアース製品の投入
- ・2012年4月:大容量 Σ -Vシリーズ
- ・2012年6月:高効率電源回生コンバータD1000
- ・2012年10月:3次元形状計測ユニット「MotoEye-3D」の投入
- ・2012年10月:「 Σ -V-EXシリーズ」の販売
- ・2013年1月:6軸力センサユニット「MotoFit」の投入



Σ -V-EXシリーズ



MotoEye-3D



MotoFit

2012年度における取り組み② コア事業の利益率向上

1) 需要地生産・調達の推進

- 瀋陽第二工場の稼動(12年9月)
- インバータの中国生産を倍増



瀋陽第2工場

2) 生産体制の合理化

- (M)国内生産工場集約
- 環境エネルギー事業領域拡大に向けた産業用モータ事業の再編・強化
⇒ 産業用モータ生産会社の集約(13年3月)

3) 業務のさらなる効率化

- 業務効率化30%(K30プロジェクト)を全社横断的に推進

(注)(M)=モーションコントロール

2. 2013年度の見通し

2013年度連結業績見通し概要

- ・ 主力の(M)が回復。太陽光発電用パワコンは順調に拡大
- ・ (R)は自動車向けを中心に堅調。液晶は回復傾向
- ・ 通期計画は、大幅な増収増益

	2012年度	2013年度 計画	前年度比	
売上高	3,103億円	<u>3,500億円</u>	<u>+396億円</u>	<u>+12.8%</u>
営業利益	130億円	<u>240億円</u>	<u>+109億円</u>	<u>+83.6%</u>
経常利益	140億円	<u>240億円</u>	<u>+99億円</u>	<u>+70.8%</u>
当期純利益	68億円	<u>130億円</u>	<u>+62億円</u>	<u>+91.2%</u>

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット

2013年度連結業績見通し概要(セグメント別)

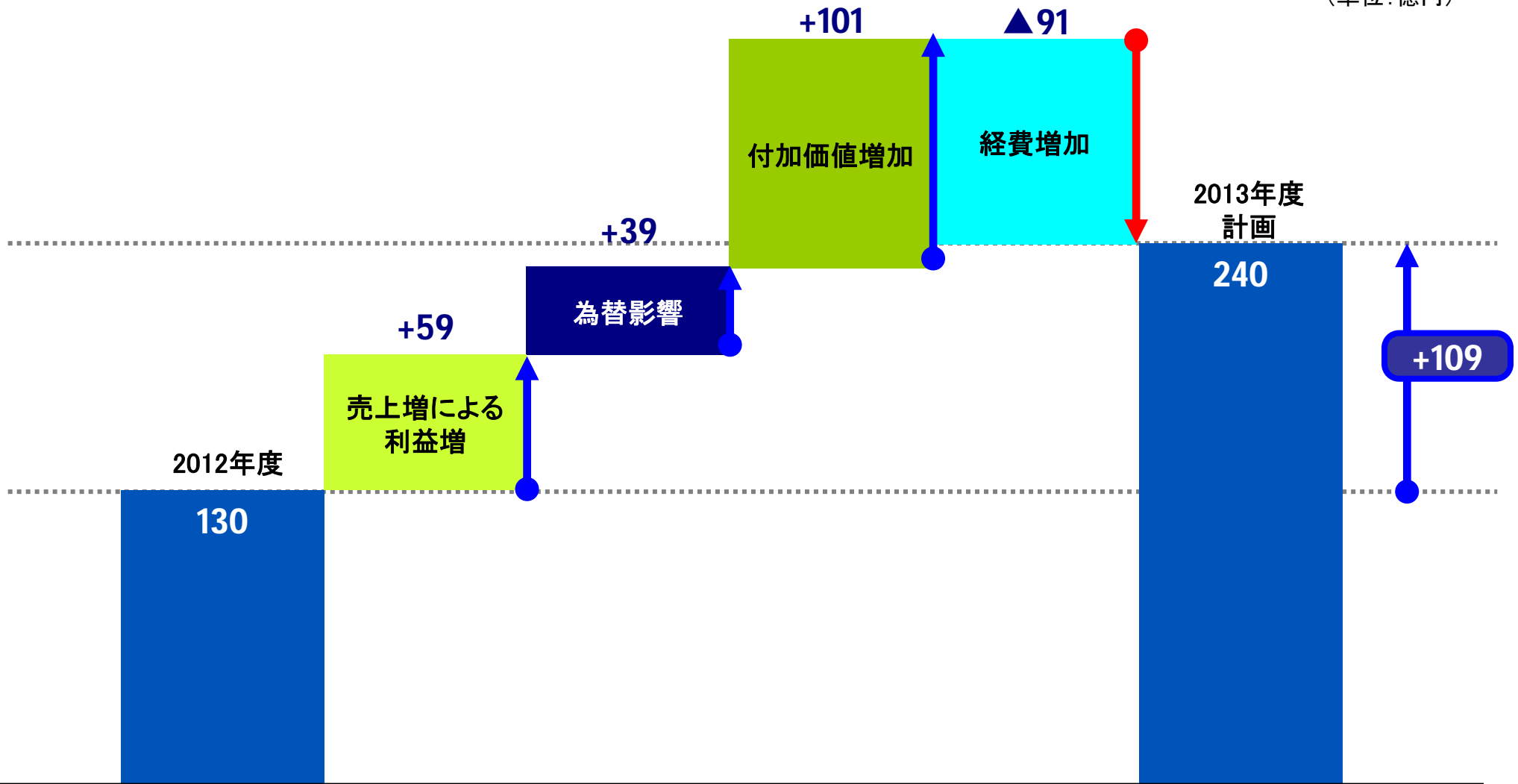
(単位:億円、%)

	2013年度		2012年度		前年同期比	
	計画	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上高	3,500	-	3,103	-	+396	+12.8%
(M) モーションコントロール	1,713	-	1,443	-	+270	+18.7%
(R) ロボット	1,200	-	1,102	-	+97	+8.9%
(S) システムエンジニアリング	336	-	372	-	▲36	▲9.7%
情報	140	-	127	-	+12	+9.5%
その他	110	-	57	-	+52	+90.4%
営業利益	240	6.9%	130	4.2%	+109	+83.6%
(M) モーションコントロール	134	7.9%	32	2.3%	+102	+315.4%
(R) ロボット	96	8.0%	83	7.6%	+12	+14.8%
(S) システムエンジニアリング	12	3.6%	15	4.0%	▲0	▲19.7%
情報	3	2.6%	▲2	▲1.9%	+6	-
その他	4	4.1%	3	6.0%	+1	+31.3%
消去または全社	▲11	-	▲1	-	▲9	-
経常利益	240	6.9%	140	4.5%	+99	+70.8%
当期純利益	130	3.7%	68	2.2%	+62	+91.2%

(注)2013年度は、セグメントの一部入れ替えを予定。上記の数値は、12年度ベースで記載。

営業利益増減要因分析(2012年度⇒2013年度計画)

(単位: 億円)



2013年度における取り組み① 量の確保

■好調・成長市場を捉えた受注拡大

(1) 中国を中心にアジアでのプレゼンス向上

- ・販売網・サービス網の拡充
⇒ 特約店の拡大、販売サポート機能の充実
- ・ソリューション能力の向上
⇒ 現地ニーズ対応製品の投入
- ・安川通商の徹底活用による拡販

(2) Vipa社とのシナジー効果を早期実現

- ・Vipa社PLC製品と組み合わせによる販売強化
- ・Vipa社販売網の徹底活用による(M)製品の拡販
⇒ ドイツにおけるシェア拡大

(3) 新事業の拡大加速

- ・太陽光発電用パワコンの確実な受注確保



Vipa社



産業用パワコン(10kW)



家庭用パワコン

2013年度における取り組み② 質の向上

■開発力・生産力の強化

(1) 現地ニーズ対応力の強化

- ・日・米・欧・中の4極におけるローカル開発強化

(2) グローバル生産体制のさらなる強化

- ・国内工場の徹底した自動化推進(効率化30%)
- ・現地生産・調達のさらなる推進
⇒中国(常州)のロボット新工場における量産開始(13年6月)

■K30プロジェクトによる経営体質の強化

- ・30%効率化へ向けた全社横断活動の展開加速

3. 参考資料

設備投資、研究開発費、為替状況

◆設備投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2011年度	2012年度	2013年度計画
設備投資額	99.1	158.9	220.0
減価償却費	76.1	81.1	95.0

◆研究開発投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2011年度	2012年度	2013年度計画
研究開発投資	103.9	107.3	110.0

◆為替状況（連結）

（単位：円）

	2011年度		2012年度		2013年度計画
	上期	通期	上期	通期	想定レート
対 米ドル	80.56円	79.02円	80.10円	81.92円	90.00円
対 ユーロ	115.07円	109.49円	101.96円	105.66円	120.00円

（注）日々レートの単純平均

B/S構造の推移(連結)

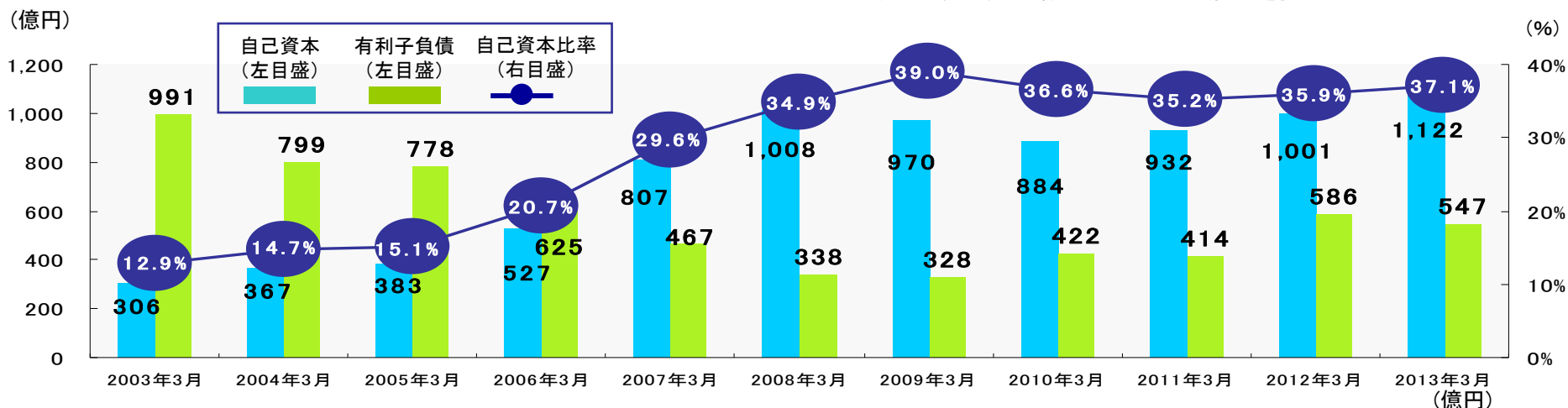
2012年3月期

- 自己資本比率 35.9%
- 自己資本 1,001億円
- 有利子負債 586億円
- D/Eレシオ 0.59
(ネットD/Eレシオ) 0.38
- 棚卸資産 638億円
(回転月数) (2.5ヵ月)

2013年3月期

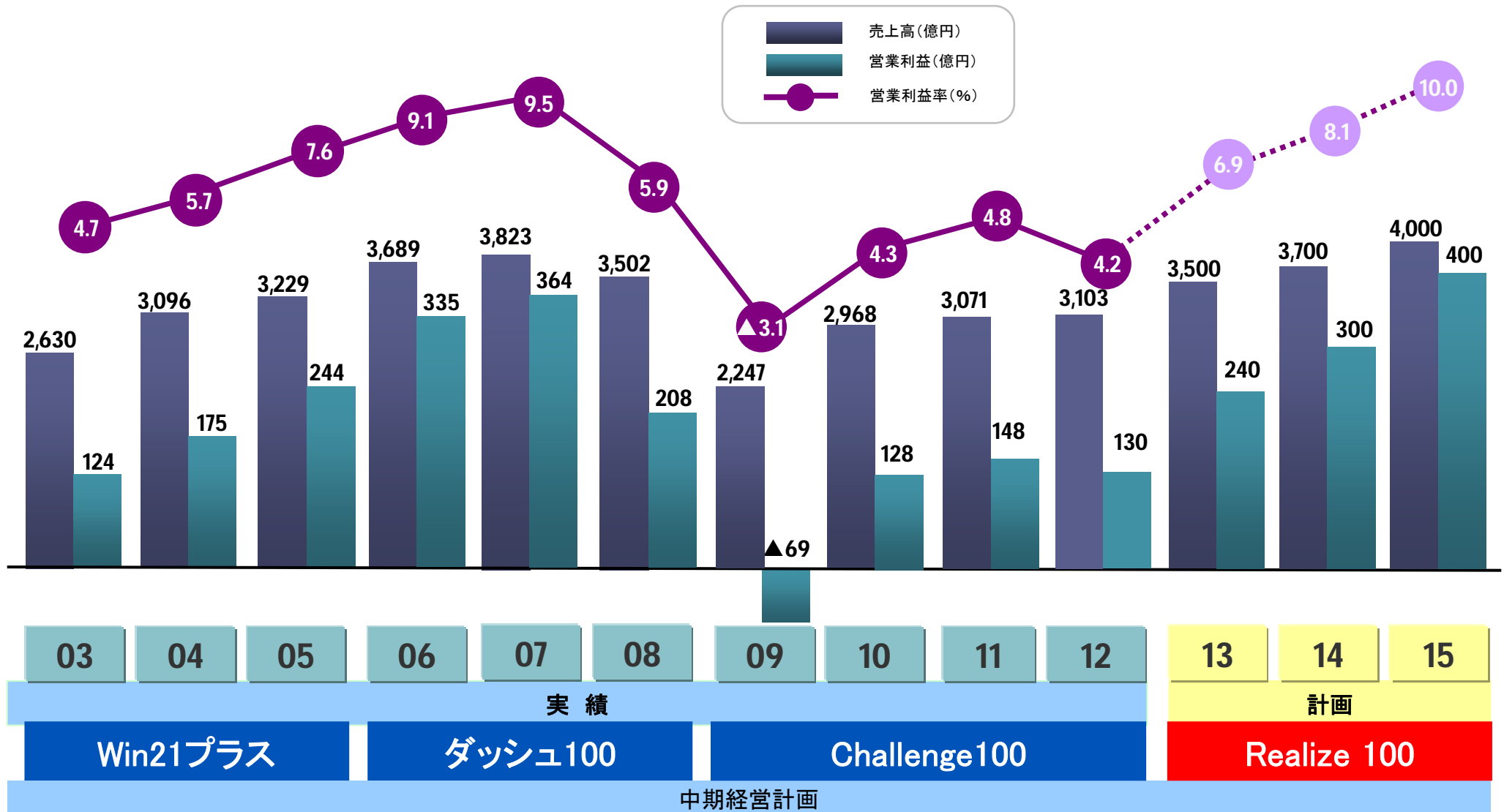
- 自己資本比率 37.1%
- 自己資本 1,122億円
- 有利子負債 547億円
- D/Eレシオ 0.49
(ネットD/Eレシオ) 0.31
- 棚卸資産 643億円
(回転月数) (2.5ヶ月)

※有利子負債は新株予約県付社債及びリース債務を含む。
※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



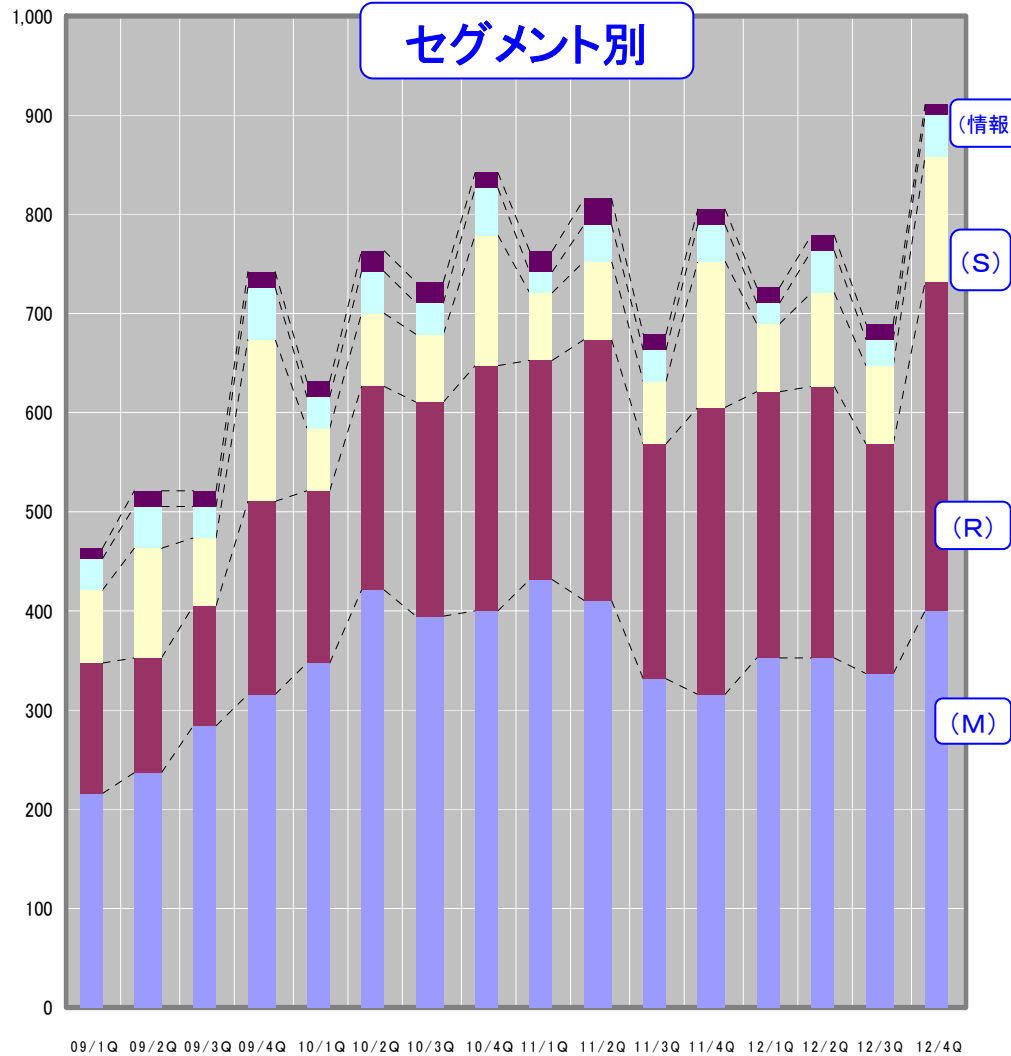
営業CF	84	185	57	187	149	176	124	40	24	63	246
投資CF	▲19	11	▲22	97	▲61	▲99	▲106	▲64	▲67	▲118	▲180
フリーCF	64	196	35	89	88	77	17	▲24	▲42	▲54	65

連結売上高・営業利益推移(2003年度～2015年度計画)

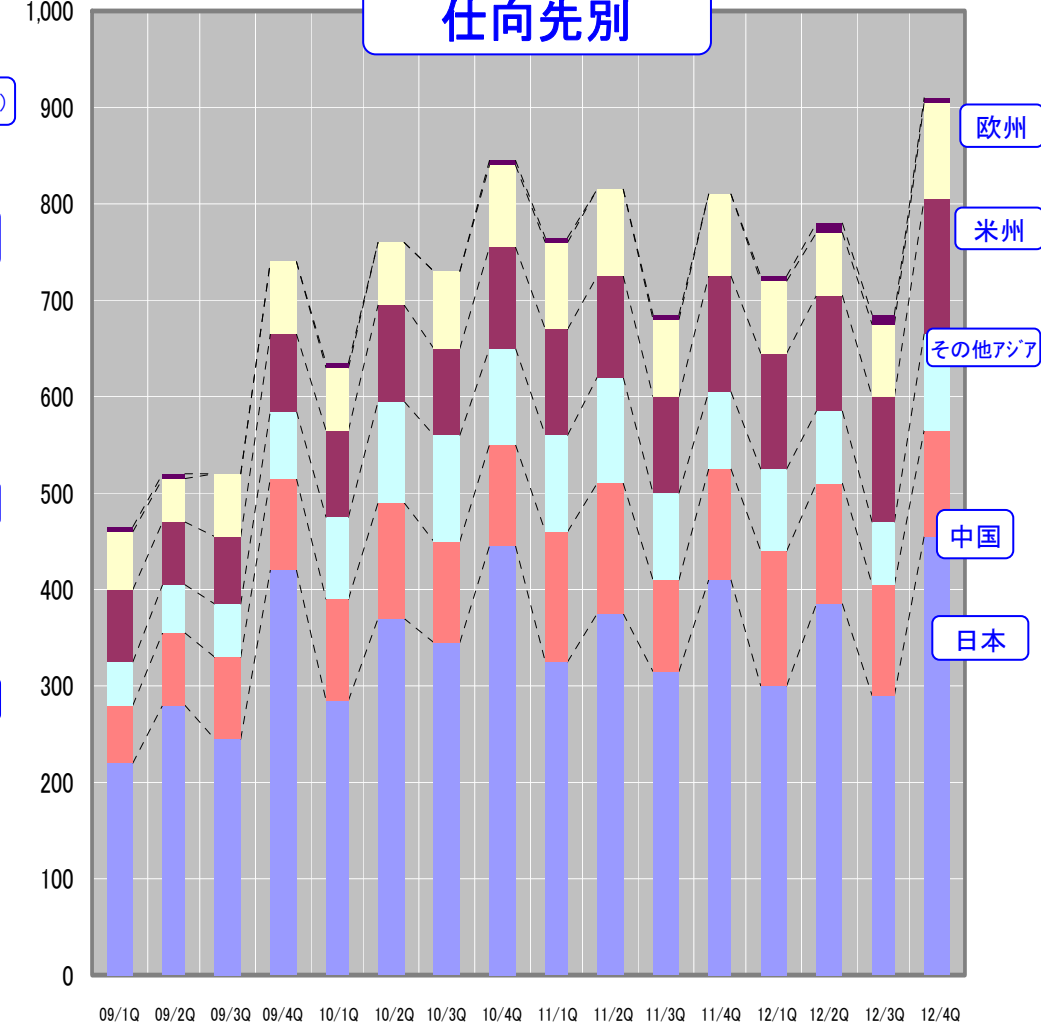


四半期連結売上高推移(セグメント別・仕向先別)

(億円)

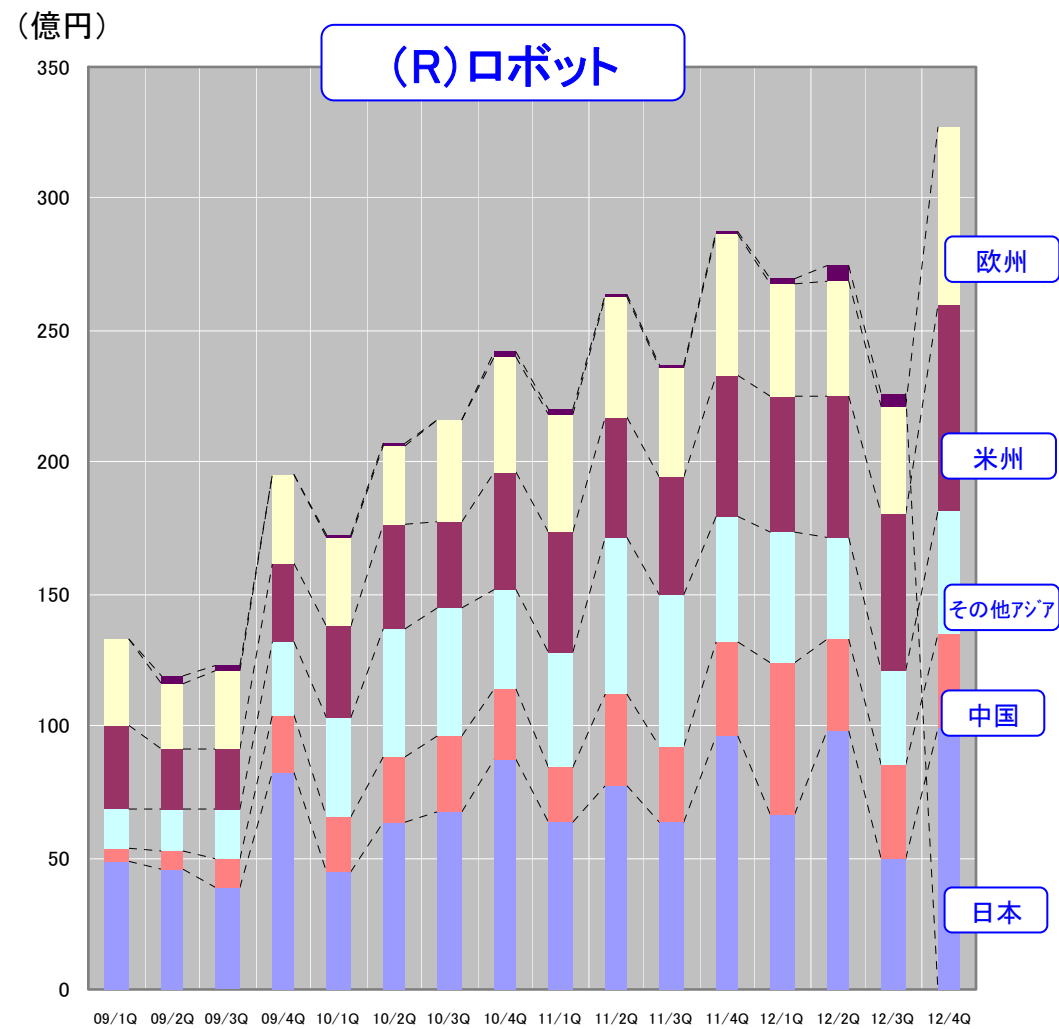
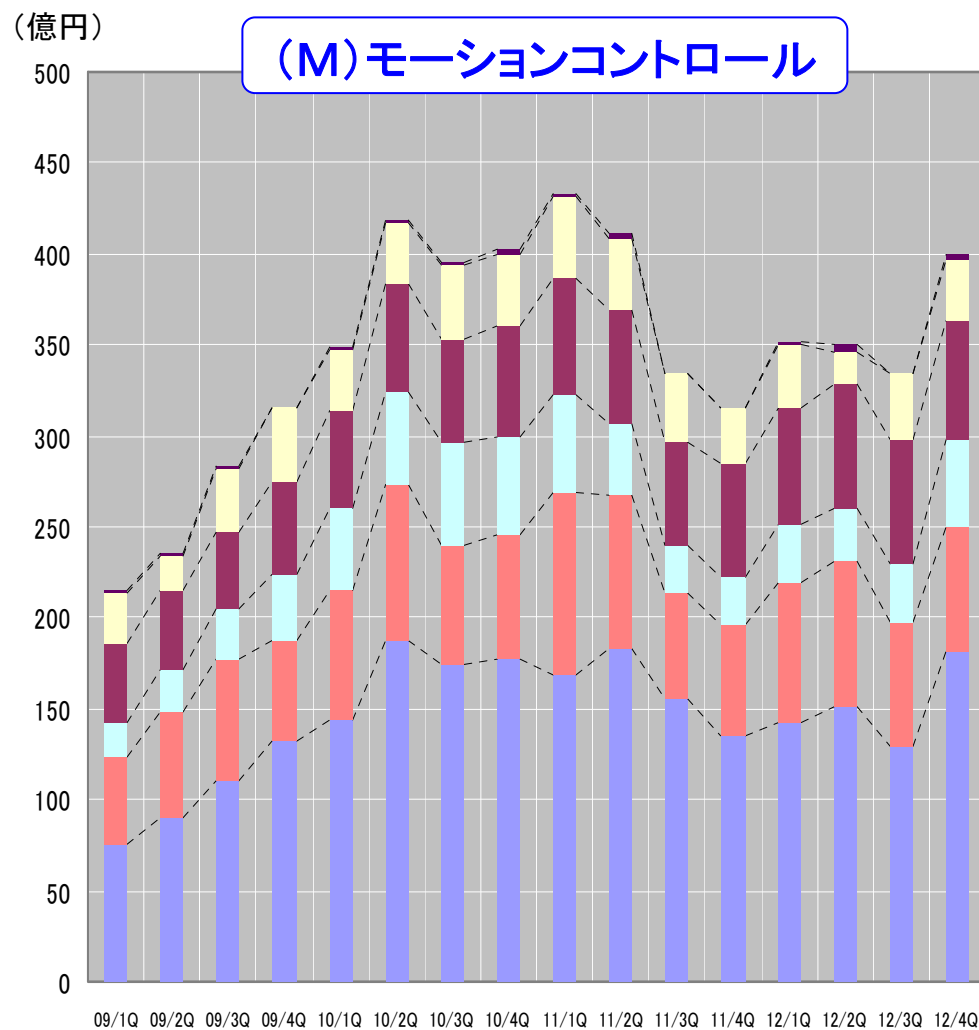


(億円)



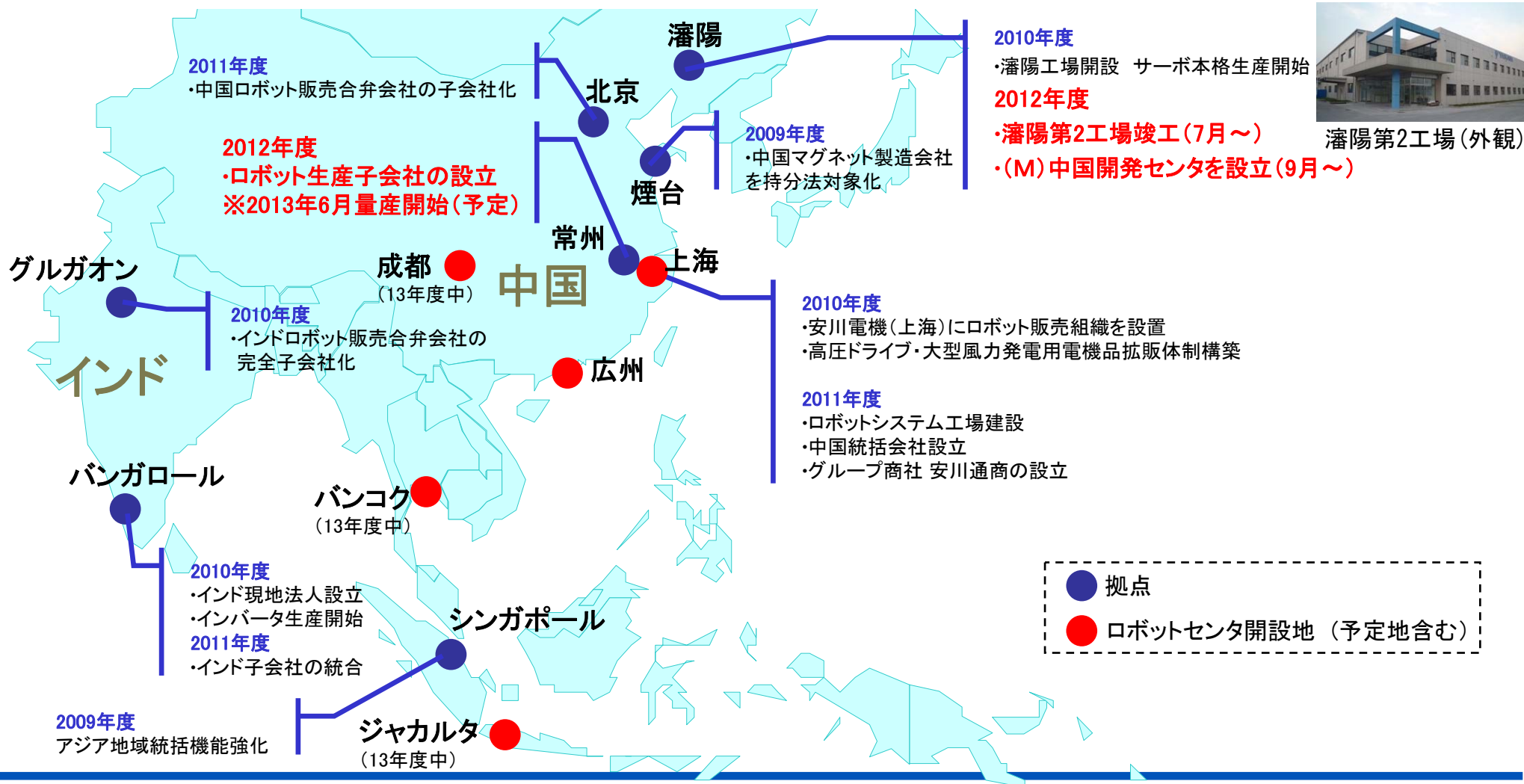
(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

(M)(R)四半期連結売上高推移(仕向先別)



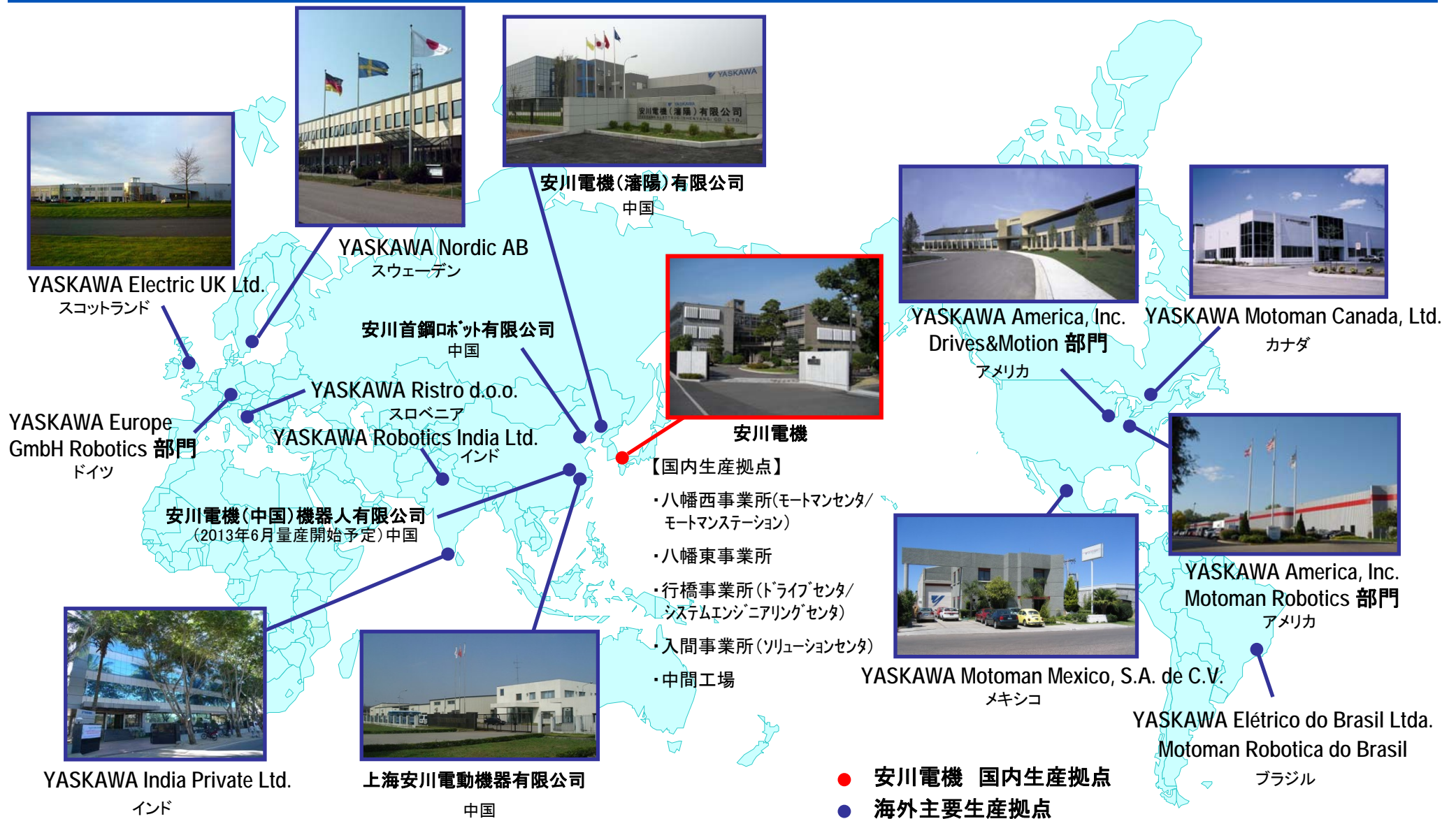
中国・アジア地域における取り組み強化

- ・中国を中心に需要地生産・調達の拡大
- ・中国・アジアでのロボットセンタ新設強化により拡販を加速



瀋陽第2工場(外観)

主要生産拠点 (グローバル事業展開を支えるYASKAWAネットワーク)



注記

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な原因には当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。